



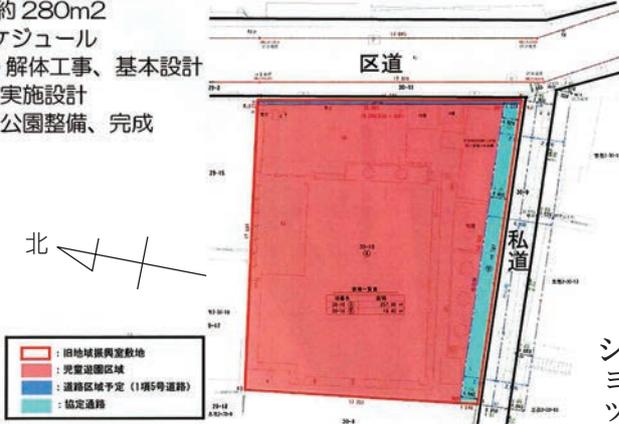
志茂2丁目に児童遊園

志茂まちづくり協議会が第10回総会 2020年度に完成めざす

概要

仮称志茂2丁目児童遊園(旧志茂地域振興室(児童館)跡地、志茂 2-30-16)

- ・面積：約 280m²
- ・事業スケジュール
 - H30 解体工事、基本設計
 - H31 実施設計
 - H32 公園整備、完成



区の担当課長は「持ち帰って検討したい」と答えました。(のの山けん)

7月31日、志茂ふれあい館で、志茂まちづくり協議会第10回総会が開かれました。この中で、現在遊休施設となっている志茂2丁目の旧志茂地域振興室跡地に、児童遊園を整備する計画が明らかにされました。協議会事務局の区まちづくり推進課からの説

明では、敷地面積は約280平方メートルで、今年度は解体工事と基本設計、来年度に実施設計を行い、工事と整備完了は2020年度となる予定です。これまで志茂地域では、ゆりの木公園、小柳川公園、わかば児童遊園を整備する際、まちづくり協議会や地域住民が参加するワークショップがおこなわれてきました。今回の公園整備で区は、ワークショップではなく、予定地

周辺100メートルの区域に居住する人を対象に、意見交換会を開いて住民からの意見を集約するつもりです。この提案に対し協議会参加者から「意見交換会の参加者を2丁目に限定するのはいかがなものか。これまでと同様、ワークショップを開いてほしい」との意見が出され、私もワークショップを開催し、広く住民の意見を聞くよう求めました。

ワークショップを開催し、住民から広く意見を

岩淵・八雲神社で 盆踊り

5日、岩淵町自治会の盆踊りが、八雲神社境内でおこなわれました。酷暑の中、参加者は汗をかきかき、音楽にあわせ2時間踊り通しました。(のの山けん)

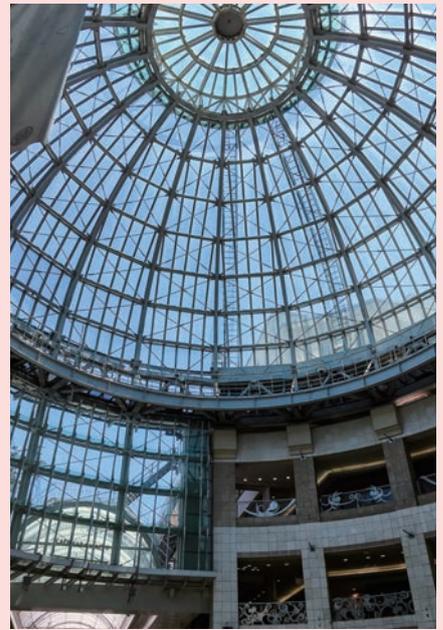


香川・高松丸亀町商店街を視察

全員同意方式で再開発

6日と7日の両日、本田正則、野口まさと両議員とともに、香川県の高松丸亀町商店街を視察しました。

同商店街は、バブルの崩壊や、1988年の瀬戸大橋の開通によって市内にだれ込んできた大規模店舗の影響で売り上げが大幅に落ち込み、存亡の危機に立たされました。そこで、同商店街振興組合が主体となって、民間主導の再開発による商店街再建にとりくみ、約20年の歳月をかけて、

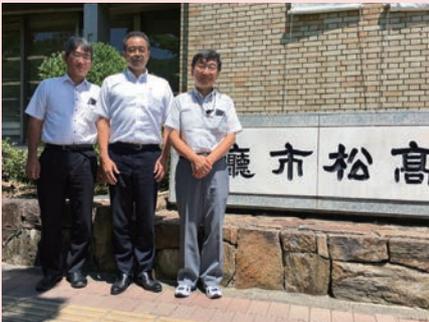


商店街の象徴となっているドーム広場

全国からも注目される成果をあげてきました。

視察では、初日に商店街振興組合の古川康造理事長から、2日目には高松市の再開発担当係長から話を伺いました。

ドーム広場のあるA街区においては、再開発法110条の「全員同意方式」を採用。4年間かけて、文字通りすべての地権者からの同意をとりつけたとのこと。住民合意を大切にする姿勢には、学ぶべきところがありました。(のの山けん)



高松市役所前で、本田・野口両議員と

ナチスによるユダヤ人の絶滅収容所といえば、アウシュビッツが思い浮かぶが、実はそれ以外にも5つの収容所が建設された。この作品は、その一つ、ソビボル収容所における囚人の反乱と脱走劇を、歴史に基づき描いた実話である。

これが初監督で、主演もつとめるロシア俳優、コンスタンチン・ハベンスキーが、「あらゆる細かい部分、全シーンで完全に本物であろうとした」と語っているように、収容所での恐怖と狂気が圧倒的な迫力で再現される。



『ヒトラーと戦った22日間』©Cinema Production
9月8日(土)より、ヒュームトラストシネマ有楽町、新宿武蔵野館にてロードショー
監督:コンスタンチン・ハベンスキー
出演:コンスタンチン・ハベンスキー、クリストファー・ランバート、ミハリナ・オリシャンスカ
2018/ロシア、ドイツ、リトアニア、ポーランド/カラー/118分 配給:ファインフィルムズ

映画 忘れてはならない歴史的事実を今日に刻む意義

囚人の誰かが脱走を試みれば、残った囚人の10人に一人をその場で射殺するという収容所の「ルール」には、背筋が凍り付く。この恐怖から逃れ、自らを解放するためには、囚人たちもまた、人道性を失わずにいられなかったという事実が重い。

「過去に目を閉ざす者は未来に盲目となる」というが、決して忘れてはならない歴史的事実を今日に刻む意義は大きい。

あまりにリアルな描写もあり、心臓の弱い人は心して観るのがよい。

(のの山けん)